

第4章

運航（船内及び訪問国活動）



1 運航日程・航路図

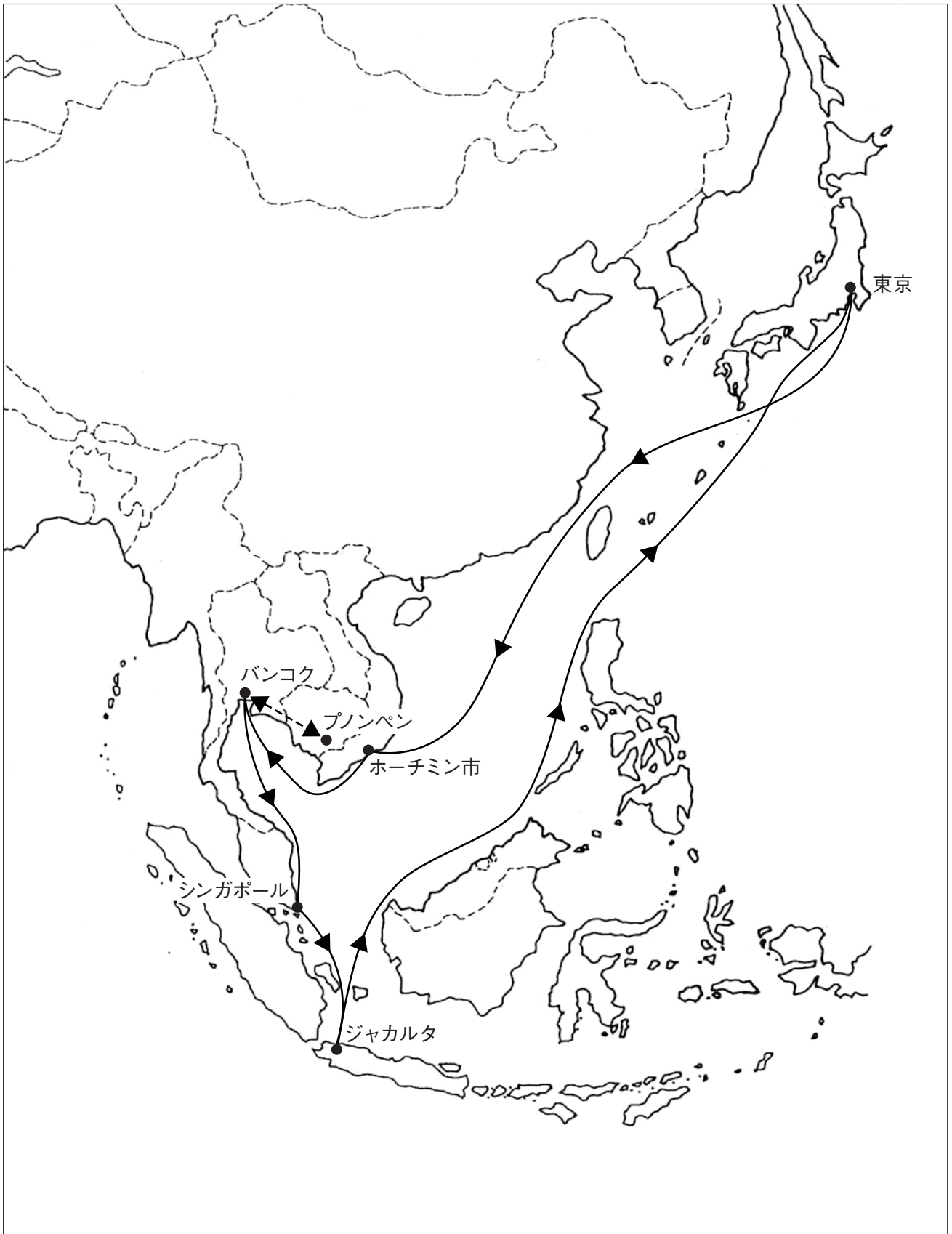
(1) 運航日程：

	入港	出港
東京 (日本)		11月4日
ホーチミン市 (ベトナム)	11月11日	11月14日
バンコク (タイ)	11月18日	11月21日
シンガポール	11月26日	11月29日
ジャカルタ (インドネシア)	12月2日	12月5日
東京 (日本)	12月14日	

(注)

- ASEAN各国のナショナル・リーダー (NL) 及び参加青年 (PY) は10月25日に来日し、翌26日に日本NL及びPYと合流、日本国内活動の後、11月3日に乗船。
- ファシリテーターは、10月29日に来日、12月5日にジャカルタ (インドネシア) にて下船、帰国。
- タイ寄港中、代表団が航空機でプノンペン (カンボジア) を訪問。(11月19日～20日)
- ASEAN各国NL及びPYは12月15日に下船、帰国。
- 日本NL及びPYは12月15日に下船、帰国後研修後、12月16日に解散。
- 事後活動組織代表者は12月3日にジャカルタ (インドネシア) に参集し、船内及び日本での活動後、12月17日に帰国。

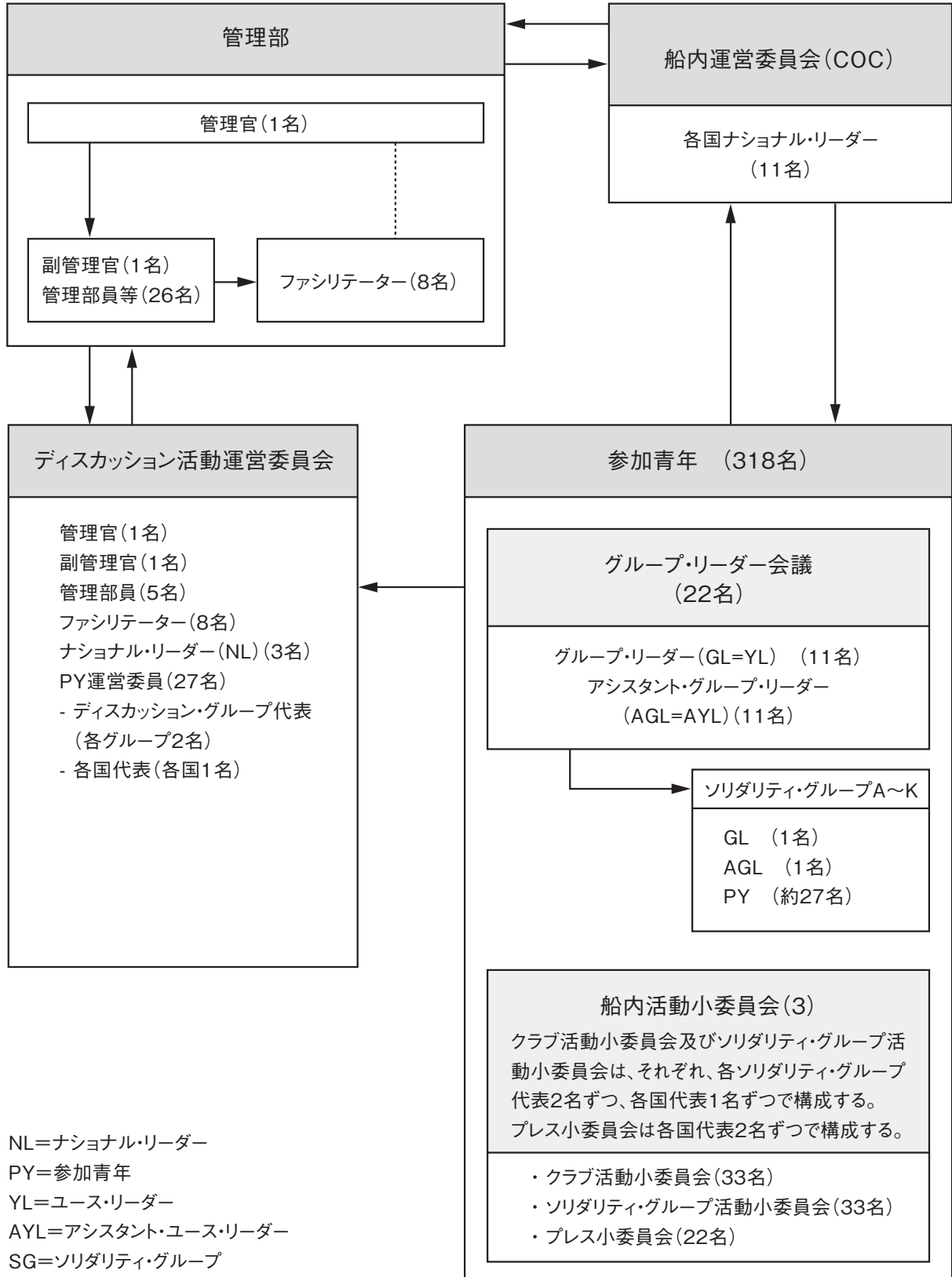
(2) 航路図



2 船内組織

(1) 船内組織図

平成28年度「東南アジア青年の船」事業（第43回）の船内組織は、次のとおりである。



NL=ナショナル・リーダー

PY=参加青年

YL=ユース・リーダー

AYL=アシスタント・ユース・リーダー

SG=ソリダリティ・グループ

(2) 船内運営委員会（COC）

COCは、NL11名をもって構成し、船内における生活基準、船内活動等の基本的事項について協議・決定する。また、グループ・リーダー会議、ディスカッション

活動運営委員会、各船内活動小委員会及びPYに対し、指導及び助言を行う。

なお、管理官は、COCに対し必要に応じて指導及び助言を行うことができる。

【NL名簿】

国名	氏名	性別	職業	担当会議・小委員会
日本	濱田 直子	女	団体職員	グループ・リーダー会議
ベトナム	Trinh Le Anh	男	大学講師	クラブ活動小委員会 プレス小委員会
タイ	Wimolrat Ratchukool	女	公務員	SG活動小委員会
カンボジア	Seang Soleak	男	自営業	ディスカッション活動運営委員会 プレス小委員会
シンガポール	Lee Chew Yee Jenny	女	不動産コンサル タント	グループ・リーダー会議
インドネシア	Yodi Dermawan Dasuki	男	銀行員	クラブ活動小委員会
ブルネイ	Ak Kamal Ariffin Bin Pg Haji Md Yassin	男	公務員	クラブ活動小委員会
ラオス	Phouvong Manivong	男	公務員	SG活動小委員会 プレス小委員会
マレーシア	Siti Mariam Binti Ahmad Tobias	女	公務員	グループ・リーダー会議
ミャンマー	Khin Sandar Thein	女	大学講師	ディスカッション活動運営委員会
フィリピン	Lamigo, Kahlil Leva	男	弁護士	ディスカッション活動運営委員会

(3) ソリダリティ・グループ（SG）

船内及び訪問国における活動の基礎単位として、各国PYほぼ同数の男女から成る約29名ずつのグループを組織した。これをソリダリティ・グループ（SG）と呼び、SG-AからSG-Kまで計11グループに編成した。

各SGには、それぞれグループ・リーダー（GL）及びアシスタント・グループ・リーダー（AGL）を置き、彼らがグループを統率した。GL及びAGLには、各国のユース・リーダー（YL）及びアシスタント・ユース・リーダー（AYL）を充て、かつ、同国のYLとAYLが同じSGに割り当てられないよう配慮して編成した。

また、各種活動・情報伝達を円滑に行うために、なるべく同じSGのメンバーが同室となるよう考慮した。

(4) グループ・リーダー会議（GLミーティング）

グループ・リーダー会議は、GL11名及びAGL11名により構成し、NL3名（日本、シンガポール、マレーシア）を顧問とし、必要に応じて船内活動等について協議し、COC等に対して意見を述べた。また、COC又は管理部からのPYに対する連絡事項の伝達や、SG間の調整を行った。

PYから提案された様々な自主活動の企画については、必要に応じてGLミーティングを通して検討・調整し、実施した。

【GL・AGL名簿】

SG	GL氏名	性別	国名	AGL氏名	性別	国名
A	Aytona, Fiona Margarita Santos	女	フィリピン	Arif Wardiman Lase	男	インドネシア
B	Silima Keopaseuth	女	ラオス	Hazan Norawniakasy	男	カンボジア
C	Nur-Illya Nafiza Binte Mohamed Noorhazman	女	シンガポール	Alounna Khamhoung	男	ラオス
D	Suci Utami Armand	女	インドネシア	Tey Tee Guan Keith	男	シンガポール
E	Norhidayat Bin Haji Ahim	男	ブルネイ	小林 真理	女	日本
F	Kaung Myat	男	ミャンマー	Nadiah Begum Binti Mohammed Salim	女	マレーシア
G	Nguyen Trung Nguyen	男	ベトナム	Aye Sandar Tun	女	ミャンマー
H	Keang Chanboramey	女	カンボジア	Garcia, Alvin Castro	男	フィリピン
I	稲垣 享一郎	男	日本	Vu Hoang Mai	女	ベトナム
J	Panomkorn Jirasatienpong	男	タイ	Nurul Hazimah Haji Hanafiah	女	ブルネイ
K	Noor Mohd Azam Shah Bin Atan	男	マレーシア	Vathanya Vichitlekarn	女	タイ

(5) ディスカッション活動運営委員会

ディスカッション活動運営委員会は、ディスカッション活動の適切な運営を図るため、管理官、副管理官、管理部員（4名）、ファシリテーター（8名）、NL（3名）、

PY運営委員（27名）をもって構成した。

ファシリテーターは、管理官の命を受けて、本事業に係る事務のうちディスカッションに関するものを処理した。

【ディスカッション活動運営委員会名簿】 *国名に下線付きは国代表PY

	グループ・テーマ	氏名	性別	国名
管理官		中村 かおり	女	
副管理官		吉田 哲也	男	
管理部員		伊藤 理士	男	
		奥 暁奈	女	
		岳中 美江	女	
		久野 愛子	女	
ファシリテーター	青年の起業	源 飛輝	男	日本
	異文化理解促進	Eugene C. Sosing	男	フィリピン
	環境(自然災害と防災)	Nguon Pheakkdey	男	カンボジア
	食育	Jaya Pradeep Krishnan	男	マレーシア
	保健教育(HIV/AIDS対策)	Berzenn Urbi	男	フィリピン
	国際関係(日ASEAN協力)	Grace Hutasoit	女	インドネシア
	学校教育	Randy Santos Magdaluyo	男	フィリピン
	情報とメディア	Devianti Febriani Faridz	女	インドネシア

	グループ・テーマ	氏名	性別	国名
NL		Seang Soleak	男	カンボジア
		Khin Sandar Thein	女	ミャンマー
		Lamigo, Kahlil Leva	男	フィリピン
PY運営委員	青年の起業	Muhammad Aditia Fauzi Husin	男	インドネシア
		Sim Zhen Li Claressa	女	シンガポール
		Haziq Putra Bin Mohamed Razif	男	シンガポール
		Nguyen Trang Thanh	女	ベトナム
	異文化理解促進	尾崎 優香	女	日本
		大久保 知明	男	日本
		Ka Kai Fong	男	マレーシア
		Chan Nyein Wai	男	ミャンマー
		Omengan, Orange Happee Galanay Piluden	女	フィリピン
	環境（自然災害と防災）	Premprey Denna Kennou	男	カンボジア
		Veng Visal	男	カンボジア
		Ranitya Nurlita	女	インドネシア
		Seares, Jude Ryan Batilaran	男	フィリピン
	食育	Andery Lim	男	ブルネイ
		Aida Mahirah Bt Kamarul Bahrin	女	マレーシア
		Dulnuan, Janelle Vincent Costina	女	フィリピン
	保健教育（HIV/AIDS対策）	Siti Humairah	女	インドネシア
		Suaybaguio, Mervin Jay Zabala	男	フィリピン
	国際関係（日ASEAN協力）	Nur Khairunnisa Awg Hj Mohammadwali	女	ブルネイ
		Dini Puspita Hapsari	女	インドネシア
		Thippaphone Xayavong	男	ラオス
		Lim Hui Xian, Joyce	女	シンガポール
	学校教育	Souphanith Vongsengthong	男	ラオス
		Patrapong Issariyapruet	男	タイ
		Omar, Omaimah Kunug	女	フィリピン
	情報とメディア	Wahyu Try Baharsyah	男	インドネシア
Del Rosario, Edracel Cervantes		男	フィリピン	

(6) 船内活動小委員会

船内活動小委員会はPYで構成し、NLを顧問とし、各船内活動の実施の細目について協議、決定する機関である。

クラブ活動及びSG活動の各小委員会は、各SG代表2名ずつ、各国代表1名ずつ、それぞれ計33名で構成した。クラブ活動小委員会の顧問をNL3名（ベトナム、インドネシア、ブルネイ）が、SG活動小委員会の顧問をNL2名（タイ、ラオ

ス）が、それぞれ務めた。

また、第3回COCでプレス小委員会を組織することを決定し、各国代表2名ずつ、計22名で構成した。プレス小委員会の顧問をNL3名（ベトナム、カンボジア、ラオス）と管理部門6名（副管理官、奥暁奈、越山恵太、鈴木輝政、白鳥正信、田畑静吾）が務めた。

【クラブ活動小委員会名簿】 * 国名に下線付きは国代表 PY

SG	氏名	性別	国名
A	Muhammad Shahnizan Bin Mohd Hajidin	男	<u>ブルネイ</u>
	Tor Thamrong	男	カンボジア
	Ahmad Salman Bin Ahmad Suhaimi	男	<u>マレーシア</u>
	Sim Siyu	男	シンガポール
B	Masagus Rifqie Saputra	男	インドネシア
	Ha Minh Thuy	女	ベトナム
C	Emi Fitri Audina	女	インドネシア
	Tam Laovichaya	男	タイ
D	I Gede Heprin Prayasta	男	<u>インドネシア</u>
	山崎 麻紀子	女	日本
	Khouanleuthai Bouathongthip	女	ラオス
E	中里見 香菜	女	日本
	Muhamad Khalid Bin Mohd Ali	男	マレーシア
	Wararee Ninkoson	女	<u>タイ</u>
F	Sourina Soukhaseum	女	ラオス
	Pang Zi Kang	男	<u>シンガポール</u>
	Ngo Phuong Anh	女	ベトナム
G	Thipasong Akhamountry	女	<u>ラオス</u>
	Mohammad Abdul Razak Bin Zulkiflee	男	シンガポール
	Parichaya Aimvijarn	女	タイ
H	成田 菜央	女	日本
	Phway Thant Chae	女	<u>ミャンマー</u>
	Rajjabhumi Samritkijjaroen	男	タイ
I	大西 真帆	女	<u>日本</u>
	Zuhaidi Zain Bin Zainuddin	男	マレーシア
	Pimonnat Srichouy	女	タイ
J	Sok Korng	男	<u>カンボジア</u>
	Phyo Thiha	男	ミャンマー
	Perez, Iscarleth Mae Rulona	女	<u>フィリピン</u>
	Farah Binte Abdul Malik	女	シンガポール
K	Diana Ang Pei Cheng	女	ブルネイ
	Ngo Quang Dieu	男	<u>ベトナム</u>
	Hoang Bich Thuy	女	ベトナム

【SG 活動小委員会名簿】 * 国名に下線付きは国代表 PY

SG	氏名	性別	国名
A	青木 大輔	男	日本
	深川 智弘	男	日本
	Nguyen Lan Uyen	女	ベトナム
B	中山 智雄	男	日本
	Gan Kah Keng	男	マレーシア
C	宮田 遥	女	日本
	Mior Syahmi Bin Mior Zainal Abidin	男	<u>マレーシア</u>
	Del Valle, Vryxon Val De Chavez	男	フィリピン
D	大久保 陸	男	日本
	Mancharee Sangmueang	女	<u>タイ</u>
	Do Hong Ha My	女	ベトナム
E	Afieqah Binti Rosle	女	<u>ブルネイ</u>
	Ly Kimjuhong	男	<u>カンボジア</u>
	Nurfathia Al-Fatah	女	インドネシア
	Ta Nhat Anh	男	ベトナム
F	Adytia Anugrah	男	インドネシア
	黒崎 直哉	男	日本
G	Asma Siti Nuur Umniyahtul Salimah	女	ブルネイ
	Phonepasith Phommasoulin	男	ラオス
H	Rino Anugraha Triatmaja	男	インドネシア
	大串 茉季	女	日本
	Sengkham Thongphataysak	女	<u>ラオス</u>
	Azurah Jan Che Onn Azahar	女	<u>シンガポール</u>
I	Muhd Fawzul Azhiim Mohd Kamarul Zaman	男	ブルネイ
	Adhi Rachman Prana	男	<u>インドネシア</u>
	Myat Min Soe	男	<u>ミャンマー</u>
	Su Thitsar Kyaw	女	ミャンマー
	Luu Thu Thuy	女	<u>ベトナム</u>
J	Andrea Suci Varera	女	インドネシア
	Chandavone Phanthavong	女	ラオス
K	峠田 志保	女	日本
	Aminna Morlakhasouk	女	ラオス
	Yngayo, Aurea Conchita Libre	女	<u>フィリピン</u>

【プレス小委員会名簿】

国名	氏名	性別
日本	金子 優一	男
	白佐 和也	男
ベトナム	Nguyen Hoang Bao	男
	Tu Quang	男
タイ	Warich Noochouy	男
	Nitcharanunt Pipattanamongkol	女
カンボジア	Chhim Sathupheap	男
	Loth Phirak	男
シンガポール	Chong Wei Ping	男
	Sim Siyu	男
インドネシア	Mohamad Rivaldi Moha	男
	Wahyu Try Baharsyah	男
ブルネイ	Abdul Haziq Hj Hairi	男
	Dayang Siti Joelaiah Binti Haji Justin	女
ラオス	Nalongsack Pongkhamsene	男
	Aminna Morlakhasouk	女
マレーシア	Gan Kah Keng	男
	Zuhaidi Zain Bin Zainuddin	男
ミャンマー	Htet Lin Naing	男
	Ye Yint Aung	男
フィリピン	Argonza, Gladys Mae Zabala	女
	Omengan, Orange Happee Galanay Piluden	女

3 船内運営委員会 (COC)

COCにおける協議事項は、以下のとおり、生活規律・船内活動・訪問国活動など、広範多岐にわたった。

第1回COCはNL会議の際に東京で、第2回以降は基本的に各訪問国活動最終日の出港後に開催した。

第1回COCの際に協議・決定した事項のうち、PYに周知・徹底すべきものについては、「プログラム・ファイル」にまとめ、全参加者に配布した。

また、船内におけるPYへの連絡事項については、モーニング・アセンブリーや、国別ミーティング、船内所定の掲示板を利用した。

【COC協議事項】

第1回 (9月15日、内閣府)

「第2章6. ナショナル・リーダー会議」を参照。

第2回 (11月4日、船内COCルーム)

1. 日本国内活動の振り返り
2. 船内活動及び船内生活について
3. その他

第3回 (11月14日、船内COCルーム)

1. ベトナムにおける訪問国活動の振り返り
2. プレス小委員会の組織について
3. 船内生活について
4. タイにおける訪問国活動について
5. その他

第4回（11月21日、船内COCルーム）

1. タイ及びカンボジアにおける訪問国活動の振り返り
2. 船内生活について
3. シンガポールにおける訪問国活動について
4. その他

第5回（11月29日、船内COCルーム）

1. シンガポールにおける訪問国活動の振り返り
2. インドネシアにおける訪問国活動について
3. 事業目的の再確認
4. その他

第6回（12月5日、船内COCルーム）

1. インドネシアにおける訪問国活動の振り返り
2. 船内生活について
3. その他

4 船内活動

(1) 船内生活**① 船内生活時間**

航海中の船内生活時間は、訪問国における活動を除き、次のとおり。

時間	活動内容
7:00	起床（モーニングコール）
7:30- 8:00	運動
8:00- 9:00	朝食
9:15- 9:45	モーニング・アセンブリー
10:00-12:45	活動
12:45-14:15	昼食
14:15-17:00	活動
17:00-18:00	自由
18:00-19:30	夕食
19:30-20:45	活動
20:45-23:00	自由
23:00	消灯（ナイトコール） ナイトパトロール

② 船内生活のあらまし**● モーニングコール、ナイトコール**

モーニングコールは、毎朝7時に、PYが当番制（SG持ち回り）で、船内放送を使用して起床の呼びかけや音楽を流す等、趣向を凝らして行った。

また、ナイトコールは、毎晩23時に、モーニングコールを担当したSGが同様に行った。

● 運動

毎朝7時30分から8時まで、ドルフィンホール又はスポーツデッキで、PYが当番制（SG持ち回り）で実施し、内容は音楽を使った体操やダンス等多彩であった。運動への参加は任意とした。

● モーニング・アセンブリー

毎朝9時15分から9時45分まで、ドルフィンホールにおいて、SG毎に整列し点呼及び健康確認を行い、その後、当番のNLが当日のスケジュール確認や連絡事項の伝達を行った。

● 活動

午前、午後及び夜の三つの活動時間帯に分けて行った（詳細は後述）。

午前及び午後の活動としては、ディスカッション活動、クラブ活動及びSG活動等を、夜の活動としてはナショナル・プレゼンテーション（NP）や自主活動を、それぞれ実施した。

● ナイトパトロール

ナイトコール終了後、NLが当番制で船内各所を見回り、異常の有無を確認し、安全の確保に努めた。

(2) 船内活動構成

船内活動	時限	活動内容
ディスカッション活動 グループ別ミーティング 導入プログラム グループ・ディスカッション 事後活動の企画・実践への導入 事後活動の企画・実践に向けたワークショップ まとめ 成果報告会準備・DG毎のレポート作成 成果発表会 自己評価	27 (1) (2) (10) (2) (2) (2) (2) (4) (2)	共通テーマ「青年の社会活動への参加」の下、8つの異なるテーマが設定され、ファシリテーターの指導によりディスカッションを行った
事後活動セッション	8	SSEAYPインターナショナル及び各国事後活動組織についての説明 事業終了後に行う社会貢献活動案の企画
クラブ活動 クラブ活動紹介 クラブ活動A クラブ活動B 成果発表会準備 成果発表会	14 (2) (4) (4) (2) (2)	クラブ活動小委員会が調整役となり、共通の興味・関心に基づいた活動を実施し、相互に教え、学ぶことで自発的な交流を図る活動
SG活動	6	SG活動小委員会が調整役となり、各SGにおける参加青年相互の理解と友情を深めるための活動
各国紹介 (ナショナル・プレゼンテーション)	11	文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を国ごとに紹介する活動
講話 管理官講話 船長講話	2 (1) (1)	管理官による講話 船長による航海経験等に関する講話
フリーデイ	8	公式な活動を行わず、体調管理や、自発的に自由に参加者同士の交流を深めるための時間
自主活動	19	明確な目標・目的を持った各種イベントやセミナーなどをPYが自由に企画・運営する活動
委員会	5	GLミーティング、ディスカッション活動運営委員会、船内活動小委員会
SGミーティング	1	船内活動小委員会メンバーの選出
国別ミーティング	5	船内活動及び訪問国活動の振り返り等
訪問国活動振り返り	6	訪問国活動における経験の共有と振り返りをSGごとに行う活動
管理部によるオリエンテーション	1	船内活動、カウンター受付、物品貸出、活動場所予約、食事持出などの説明
海事・通関関係 船側オリエンテーション・避難訓練 船内見学・写真撮影 下船手続き説明 荷物移動	7 (1) (2) (1) (3)	船内設備説明・非常時を想定した避難訓練等 操舵室の見学、報告書用の写真撮影 入国・下船手続き、通関などの説明 荷物の移動、清掃等
帰国報告会準備	1	
帰国報告会	1	国ごとの事後活動案の発表及び管理官による報告
解散式	1	NL及びPYへの参加証の授与
合計	123	

注) 「時限」の一部は四捨五入している場合がある。

(3) 船内活動実績

月 日	10:00～11:15	11:30～12:45	14:15～15:30	15:45～17:00	19:30～20:45	
11月 3日(木)				乗船	荷物移動	
4日(金)	避難訓練	出国手続	船内公開	出航式	国別ミーティング	
5日(土)	オリエンテーション	ディスカッション活動 (グループ別ミーティング)	GLミーティング ディスカッション活動運営委員会	SGミーティング	自主活動	
6日(日)	ディスカッション活動運営委員会 船内活動小委員会		写真撮影・船内見学(SG毎)		自主活動	
7日(月)	管理官講話	船長講話	ディスカッション活動 (導入プログラム)		自主活動	
8日(火)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションI)		自主活動		ナショナル・プレゼンテーション (日本)	
9日(水)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションII)		SG活動I		ナショナル・プレゼンテーション (ブルネイ)	
10日(木)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションIII)		クラブ活動紹介		ナショナル・プレゼンテーション (ベトナム)	
11日(金) 12日(土) 13日(日)	ベトナム訪問国活動					
14日(月)						
15日(火)	フリーデイ(半日)		訪問国活動振返り<SG毎>I		ナショナル・プレゼンテーション (ラオス)	
16日(水)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションIV)		自主活動		ナショナル・プレゼンテーション (タイ)	
17日(木)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションV)		SG活動II		ナショナル・プレゼンテーション (カンボジア)	
18日(金) 19日(土) 20日(日)	タイ訪問国活動 代表団によるカンボジア訪問国活動(11月19日(土)～20日(日))					
21日(月)						
22日(火)	フリーデイ(半日)		ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践への導入)		自主活動	
23日(水)	ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践に向けたワークショップ)		GLミーティング ディスカッション活動運営委員会 船内活動小委員会		ナショナル・プレゼンテーション (マレーシア)	
24日(木)	ディスカッション活動 (まとめ)		クラブ活動A (1)		ナショナル・プレゼンテーション (ミャンマー)	
25日(金)	ディスカッション活動 (成果発表会の準備・DG毎のレポート作成)		クラブ活動A (2)		ナショナル・プレゼンテーション (シンガポール)	
26日(土) 27日(日) 28日(月)	シンガポール訪問国活動					
29日(火)						
30日(水)	ディスカッション活動 (成果発表会)				ナショナル・プレゼンテーション (フィリピン)	
12月 1日(木)	ディスカッション活動 (自己評価)		訪問国活動振返り<SG毎>II		ナショナル・プレゼンテーション (インドネシア)	
2日(金) 3日(土) 4日(日)	インドネシア訪問国活動					
5日(月)						
6日(火)	フリーデイ					自主活動
7日(水)	事後活動セッションI(全体会)		クラブ活動B (1)		自主活動	
8日(木)	事後活動セッションII (国別・各国の事後活動紹介)		クラブ活動B (2)		自主活動	
9日(金)	自主活動		SG活動III		自主活動	
10日(土)	事後活動セッションIII (国別プロジェクト案議論・作成)		クラブ活動A (成果発表準備)	クラブ活動B (成果発表準備)	自主活動	
11日(日)	事後活動セッションIV (国別プロジェクト案完成・帰国報告会準備)		クラブ活動(成果発表)		自主活動	
12日(月)	訪問国活動振返り<SG毎>III					
13日(火)	下船手続説明	国別ミーティング			荷物移動	
14日(水)	入国手続・荷物審査		帰国報告会準備	帰国報告会	解散式	
15日(木)	下船					

(4) ディスカッション活動・事後活動セッション

ディスカッション活動は、異なる背景を持つ各国PYが自由に意見交換を行うことによって相互理解を深めることを目的とした活動である。

事後活動セッションは、ディスカッション活動の成果を活かし、事後活動への積極的な参加の促進、事後活動組織のネットワーク強化を目的として実施した。

詳しくは、第5章「ディスカッション活動・事後活動セッション」を参照。

(5) クラブ活動

以下のことを目的としてクラブ活動を実施した。

- ・ 共通の趣味と関心の追求を通じて、PY相互の自発的交流を図ること
- ・ 他国の文化（伝統工芸、歌、ダンス等）に触れることを通して、その国の文化をより深く理解すること
- ・ クラブ活動を主催することで、リーダーシップを学ぶこと
- ・ 日本とASEAN各国のPYが一体となり、一つの成果を生み出す体験をすること

また、クラブ活動の運営は、担当顧問であるNL3名（ベトナム、インドネシア、ブルネイ）の指導の下、クラブ活動小委員会が行った。

まず、11月10日に、クラブ活動を主催するPYが全体に対して各クラブの活動内容を紹介した。PYは、「クラブ活動A」及び「クラブ活動B」において、主催者又は参加者の立場を選んで、それぞれ一つずつのクラブ活動に参加した。12月11日にはクラブ活動の成果として、各クラブ活動に参加したPYによる発表を行った。

クラブ活動を通してPYは、自国の芸能やスポーツなどを伝えるだけでなく、他国の文化に触れ、実際に体験することにより、相互理解を深め、文化の多様性を認識する絶好の機会となった。

開設されたクラブ活動は以下のとおりである。

クラブ活動A

(1) 11月24日 (2) 11月25日

<ベトナム>

伝統的な笠（ノンラー）の絵付け、ベトナムコーヒー文化

<タイ>

ピーターコーン（精霊の仮面）の絵付け、タイ式マッサージとハーバル・セラピー

<シンガポール>

伝統的な子供の遊び、多文化フュージョンダンス（中華系、マレー系、インド系のミックス）

<インドネシア>

伝統舞踊（ザピン・ムダムディ）、パティック布を使ったハンディクラフト（伝統的な扇子）制作

<ラオス>

ハンディクラフト（国花チャンパーのブローチ）制作、伝統舞踊、伝統衣装着付け体験

<マレーシア>

ヘナタトゥー体験、伝統楽器コンパン

クラブ活動B

(1) 12月7日 (2) 12月8日

<日本>

茶道、風呂敷、よさこい、ソーラン節

<カンボジア>

伝統武術ボッカタオ、ハンディクラフト（拓本）体験

<ブルネイ>

伝統衣装（トゥドン（女性のスカーフ）、シンジャン（男性の腰巻））着付け体験、ジャウィ（アラビア文字）習字、伝統武術シラット、伝統舞踊

<ミャンマー>

ミャンマー語講座、伝統舞踊、伝統的な紙おもちゃの絵付け

<フィリピン>

ルソン・ビサヤ・ミンダナオ各地域の伝統音楽と舞踊、伝統的な子供の遊び



クラブ活動（インドネシア）

(6) ソリダリティー・グループ（SG）活動

SG活動は、PY相互の理解と友情を深めることを目的とした活動であり、主にSG対抗や全員参加形式のレクリエーションを行った。この活動の運営は、担当顧問であるNL2名（タイ、ラオス）の指導の下、SG活動小委員会が行った。

SG活動小委員会は、SG内の団結力や連帯感を高めると同時に、活動を通してPYが心身ともにリフレッシュできるよう多彩な企画を立てた。こうしたSG活動を通して、SG内の結束だけでなく、PY全体の一体感も高めることができた。

<SG活動の日程・内容>

SG活動I（11月9日）

- ・ 「SGキングダム（王国）」（それぞれのSGを独立した王国として、王様、国歌、国旗、国語、チアーなどを作る。）

- ・ SG対抗ゲーム（ジェスチャーゲーム、バランスゲーム、ユニティウォーク）
- ・ コミュニケーションダンス

SG活動II（11月17日）

- ・ SG対抗宝物探し
- ・ 歌“We are Unity”を手話付きで歌う
- ・ SG対抗フォト・ハンティング（写真に写っている人物を探す）

SG活動III（12月9日）

- ・ ギャラクシー・グループ（SGとは別の各国混合グループ）を作り、グループ対抗チア合戦及びゲーム
- ・ SGごとに作成した動画の上映
- ・ ほめほめゲーム（お互いに相手に感謝の気持ちを伝える）
- ・ ヒューマンドミノ（参加者全員でドミノ倒し型に輪になり写真撮影）



(7) ナショナル・プレゼンテーション（NP）

NPは、各国毎にPYが音楽・舞踊・劇・説明・ビデオ等を用いて、各国の文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を紹介することにより、参加各国についての理解を深めることを目的としている。訪問国については、その国に関する知識を事前に得ることができるよう、各国に到着する前日に当該国のNPを開催した。

他の船内活動に支障をきたさないように、準備時間を設けるなど配慮した。企画・準備から司会進行、パフォーマンス、音響・照明、ステージの飾りつけに至るまで、全てPYが役割を分担して行った。NPにより各国PYたちは、それぞれの文化の差異を再認識するとともに、日本と東南アジア文化圏の中での多様性や類似性について実感した。

また、各国の食文化に対する理解を促進することを目的として、各国NPが行われる日の昼食には、当該国の代表的な料理が二品提供された。

【各国NPの概要】

国	概要
日本	日本のNPは、時代を経てコミュニティの形が変わっても友情や愛情、家族愛は変わらないという思いから「カタチ」をキーワードに製作された。ストーリーは7月7日に離れ離れになった織姫と彦星がお互いを探す旅をする中で日本の四季や歴史を紹介する構成であった。お米の収穫期を迎えたのどかな農村の大家族をテーマにした江戸時代の秋から始まり、冬では昭和から現代までの地域社会の変化を取り上げた。春のパートでは桜と琴で「さくらさくら」を演奏し春の美しさを演出し、夏のパートでは地域社会の一部としての祭りを取り上げ、よさこい踊りやソーラン節を披露した。
ベトナム	「Tam Cam 語られないストーリー（お話の裏側）」 ベトナムのNPは、「Tam Cam」というおとぎ話を基にしている。物語の善人はいつでもハッピーエンドを迎え、悪役はその反対に不幸になると思う人が多いだろうが、実際は、愛と幸せは当たり前にあるものではなく、一方、誰にでもハッピーエンドを迎えるチャンスがある。これが、NPを通して伝えたい主要なメッセージであった。ベトナムの伝統舞踊やモダンダンス、そしてカンフーや伝統音楽とともに、ベトナムPYが作曲したテーマソングに乗せて、祖国への希望を披露した。
タイ	タイのNPでは、様々な側面から「愛」の定義を探ることを目的とした。タイ北部に暮らすサリンという名の女性が、親の決めたお見合いから逃れることを決心し、自由を手にした使用人ディンとともに逃亡するところから物語は始まる。その旅の中で、サリンとディンは、タイの4つの地方の踊り（フォンティー、タレーキパット、フォンジェンなど）やムエタイ（タイ式キックボクシング）を目にし、そこに伝わる物語、それぞれの地方に暮らす人々の特性など、多様な文化に触れる。NPのテーマは「伝統的なタイ社会の愛、多様性、歴史」であり、現代の若者の個性や自立も描写した。青年は自分自身で人生を選択していくことができると同時に、社会全体に対しても責任が必要である。

国	概要
カンボジア	カンボジアのNPは、「時を超えた記憶」というラブストーリーを通して、現代カンボジアの美しさ、壮大なアンコール建築、豊かな歴史、ユニークなクメール文化を表現した。若い女性が前世の恋人を探す物語で、彼女は現在と過去、現実と夢の中を行き来しながら、芸術や舞踊など多様なクメール文化に触れる。そして彼女と恋人が、かつて宮殿で、ラコンコルと呼ばれる仮面舞踏やアプサラダンスを踊っていたことが分かる。二人はカンボジアのあちこちを旅し、様々な民族が踊る収穫祭のダンスや、プロイスイ・ダンス、愛のスカーフダンスなどに会う。NPは現代舞踊と古典舞踊を合わせたモンキーダンスで終わりを迎えた。
シンガポール	「カラズ・オフ・ドット (様々な色の点)」 シンガポールのNP「カラズ・オフ・ドット (様々な色の点)」は、小さな点のようなシンガポールの生活を垣間見ることのできる構成であった。この物語は、典型的なシンガポールの一家、リー家の3世代を通して語られる。建国時の波乱な時代に思いを巡らす祖父が、孫ウィリーに兵役義務の重要性について語る。父と母はかつて彼らがデートしたシンガポール国内の街を回る。ガーデンシティを巡る散歩は、シンガポールの都市景観がどのように発展していったか、ロマン溢れる視点を与えてくれた。そして、TV番組「誰もが大好きフード天国マカンスートラ」のホストが、舌鼓を打つおいしい料理の数々を紹介。リーの末娘ヴィッキーはコンサートで舞台に立ち、夢を叶える。「私たちの家」であるこの小さな島シンガポールは、暖かさと活気と安らぎに満ち溢れている。
インドネシア	インドネシアのNPは、インドネシアで4年に一度開催される総合スポーツ競技大会PONを表現した。力強いパフォーマンスや武道を通して、インドネシア文化の多様性を描写した。PONは、インドネシア各地に運ばれる聖火によって始まる。今日、このPON精神がインドネシア青年を社会貢献へと突き動かしている。
ブルネイ	ブルネイのNPは、観客がブルネイへの旅を体験することを目指した。ハドラーと呼ばれるマレーの伝統太鼓のリズムでNPの幕が上がる。続いて、伝統舞踊が披露され、王とマレー文化と宗教を映し出す国の哲学「マレーイスラム君主制」が表現される。終盤には、ブルネイの「ビジョン2035 (2035年までにブルネイが達成すべき目標)」が示される。
ラオス	「ラオスの魅力的な田舎の生活」 ラオスのNPは、様々な民族のラオス各地での生活様式を表現した。踊りの独特な動きや色彩溢れる衣装を通して、それぞれの民族の生き方や生活様式の特徴に気がつくだろう。NPは、ラオスでの滞在が素晴らしいものになるようにと願う、客人を迎える伝統的なオープニングパレードで始まる。そして、連帯と調和の中で共に生きるラオスの様々な民族グループの歌「パオラオウイ (ラオスの民族)」が続く。「ブンクンカオ」はラオスの南部タリエン族のお米への感謝の儀式的な踊り、「ケップヨートサー」はポンサーリー県州プーノイ族のお茶の収穫を喜ぶ踊り、「スイエンカンエイパオフォン」はモン族の楽器を使った音楽、そして、ラーオ族の「ラーオドゥアンドゥアン」と続き、最後にラオスの首都ビエンチャンの美しさと発展を表す歌「タイファー・ビエンチャン」で終わった。
マレーシア	「多様性交響曲の旅路」 マレーシアのNPは「多様性交響曲の旅路」と題して、色彩豊かなパフォーマンスを美しく奏でた。マレーシアという国の多文化を表すマレー系、中華系、インド系、ボルネオ島の民族が入り混じったダンスからNPの幕が上がる。それぞれの民族の美しさを尊重し、整合性をとり、相互理解を深め合う、まさにユニークかつ調和のとれた交響曲である。公式行事の時に着る「ソケット」という手織物を身にまとった踊り、伝統武術「シラット」の俊敏な動き、これらが現代音楽に合わせて披露される。中華系精神に溢れるランタンフェスティバル、伝統的な衣装を身につけたニョニャ (中華系とマレー系の混血) の「イナンプキットチナ」ダンスが続く。更に、国民に調和と平和の幸福をもたらす、国の結束を表す歌「パーテラ・マレーシア」を歌う。先住民に起源があり、儀式で行われる「セワン」ダンスも見ている観客を楽しませるだろう。クライマックスに向けて、ボルネオ島の様々な民族の竹を使った踊りが披露され、最後には全員がバングラ・ダンスを踊った。
ミャンマー	ミャンマーのNPは、ある女の子が夢の中で不思議な出会いをする物語仕立てであった。彼女は様々な場所で人々と出会い、時と場所を超えて常に現れる一人の男性の存在に気づく。魔法のような旅の中の数々の舞踊がミャンマーのユニークさを表している。幕開けの3つの踊り「バガン」、「ピンヤ」、「クウンボウン」は、ミャンマーの歴史上の3つの時代の舞台芸術の美しさとユニークさを表現した。また、「ティンジャン」と呼ばれる水かけ祭りはミャンマーで人気のお祭りであり、ミャンマーの人々の祝典に対する団結と愛の象徴である。ティンジャン・ダンスは、人々が一つの大家族として季節の精神を楽しむことを表している。

国	概要
フィリピン	フィリピンのNPは、フィリピン北部山岳管理地域に由来するギタロンという神話の鳥が、ルソン地方から始まり、ビサヤ地方へ、最終的にミンダナオ地方へと旅する物語である。NPでは古典的な音楽やフォークソング、伝統的な舞踊と祝典を通して、多様性豊かなフィリピン文化を描いた。多様な民族の踊りが合わさった最後のダンスは、フィリピンの多様性の結集を象徴している。

(8) 自主活動

自主活動は、一人又は複数のメンバーにより、自らがやりたいと思う活動を自由に企画し、参加者を募り、実践する活動である。これにより、PYは自らの考えや思いを発信、企画、実践する力を養うことができ、国やSG、ディスカッショングループの枠を超えて活発に交流することができた。

＜自主活動の例＞

- ・ ディーパバリ（インド系のお祭り）
- ・ ミスター&ミス「アボン・ラーオ」コンテスト
- ・ SSEAYPタレントショー
- ・ ファッション・コンテスト
- ・ プロム・ダンスナイト
- ・ 日本の47都道府県の紹介
- ・ 日本酒・日本文化紹介
- ・ ベトナムビール・ベトナム文化紹介
- ・ ミャンマー茶・ミャンマー文化紹介
- ・ タイマッサージ・タイ文化フェスティバル
- ・ 日・ASEANクイズ（DG6）
- ・ 健康チェックアップ（医師や看護師のPYによる企画）
- ・ 音楽バンド
- ・ 映画鑑賞会
- ・ カラオケ大会
- ・ ダンス・ワークショップ
- ・ アンチエイジング・ヨガ・ワークショップ
- ・ 日本の琴紹介
- ・ ビジネスネットワーク作り
- ・ 柔道
- ・ フリー・マーケット（不用品の物々交換）
- ・ イスラム教のお祈り
- ・ パジャマ・クリスマスパーティ

(9) 訪問国活動振り返り

訪問国における活動や経験を振り返り、SGごとに共有した。これによりPY個々の活動や経験を異なる観点から見直すことができた。

(10) フリーデイ

活動のスケジュールが過密な中で、PYの体調管理のための時間を確保するため、公式な活動を行わない半日フリーデイを2回、全日フリーデイを1回設けた。また、フリーデイは、PYが自発的に自由に参加者同士の交流を深める機会でもあった。フリーデイとした日はモーニングコールや運動を行わず、モーニング・アセンブリーは通常よりも時間を遅らせ、12時から12時30分の間に行った。

(11) その他の活動

① 避難訓練（11月4日）

ドルフィンホールでにっぽん丸乗組員から説明を受けた後、各自室に戻り、船内放送と非常ベルを合図に、各自救命胴衣を着用し、指定の避難場所に集合した。ここでは担当の乗組員から緊急事態発生時の対応方法について説明を受けた。

② 船内見学（11月6日）

SGごとに、操舵室の見学を開催した。備えられている最新の機器やその操作方法等について乗組員から説明を受けた。

③ 管理官講話（11月7日）

出航にあたって、中村かおり管理官が、PYに対して講話を行った。日本・ASEAN関係の歴史的経緯、船での交流活動の意義などを述べ、本事業が多くの関係者に支えられているものであることを常に意識し、自身の成長を通して支えてくれた人々に報いてほしいと激励した。

④ 船長講話（11月7日）

にっぽん丸の久保滋弘船長が船の設備や航海に必要な専門知識について説明した後、海に関する質疑応答を行い、PYの船及び航海に対する認識を高めた。

5 訪問国活動

訪問国における活動は、各国政府及び各国受入委員会が計画し、実施した。各国受入委員会には各国事後活動組織のメンバーも含まれており、バスへの添乗など訪問国活動の実施に当たっては、既参加青年が中心的な役割を担った。

東南アジア各国の寄港地には、4日間の日程で訪問し、それぞれの国において、一般家庭でのホームステ

イ、政府要人への表敬訪問、地元青年との交流、産業・教育・文化・社会福祉分野などの諸施設を見学する課題別視察などを行った。ベトナムの訪問国活動においては、ディスカッション活動の8グループごとに、グループ・テーマに沿った内容の課題別視察を行った。

以下は、各国における訪問国活動日程を訪問国順に記録したものである。

(1) ベトナム

月日	時間	活動内容
11月11日 (金)	7:30-8:00 10:00 10:00-12:00 13:30-14:15 14:15-14:45 15:00-16:00 18:20-19:20 19:40-21:30	ベトナム国旗掲揚式 (於 ドルフィンホール) 入港 (ホーチミン市、カットライ港) ベトナムにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング (対COC) 記者会見 (於 ラウンジ「海」) 受入委員会によるオリエンテーション (対PY、於 ドルフィンホール) 到着歓迎式 (於 カットライ港) ・ PYによるフラッグ・チアー ・ Mr. Nguyen Long Haiホーチミン共産青年同盟中央委員会書記官・ベトナム国家青少年委員会常任副議長挨拶 ・ 中村かおり管理官挨拶 歓迎夕食会 (於 アドラ・ラグジュアリー) ・ Ms. Nguyen Thi Leホーチミン市党内委員会常任委員・大衆動員部長挨拶 文化交流 (於 アドラ・ラグジュアリー) ・ 地元青年によるパフォーマンス ・ PYによるパフォーマンス
11月12日 (土)	8:00-8:30 9:30-13:00 14:30-16:30 18:00-20:00	ホームステイ説明 (対PY、於 ドルフィンホール) 課題別視察 (ディスカッション・グループ (DG) 別) DG1: トン・ドゥック・タン大学 DG2: ホーチミンシティ人文社会科学大学 DG3: ノンラム大学 DG4: サイゴン・ツーリスト社ヴァンタイン・ツーリズムパーク DG5: リンスアン児童ホーム DG6: ベトナム国家大学ホーチミン市校 DG7: レー・ホン・フォン高等学校 DG8: トゥイチェー新聞 ホームステイ・マッチング (於 工科大学) <管理官、NL> Mr. Nguyen Manh Cuongホーチミン共産青年同盟ホーチミン市委員会書記官主催夕食会 ・ 記念品交換
11月13日 (日)	 9:15-10:15 18:00-21:00	<PY> ～終日ホームステイ～ <管理官、NL> ホーチミン市人民委員会副委員長表敬訪問 (於 ホーチミン市人民委員会庁舎) ・ Ms. Nguyen Thi Thuホーチミン市人民委員会副委員長挨拶 ・ 記念品交換 既参加青年のつどい (於 ドルフィンホール及びダイニングルーム)

月日	時間	活動内容
11月14日 (月)	11:30-12:30 13:00-14:00 14:45-15:45 16:00	PYホームステイから帰船 船内公開 出港式（於 カットライ港） ・ Mr. Nguyen Viet Que Sonホーチミン共産青年同盟ホーチミン市委員会副書記官挨拶 ・ PY代表Ms. Aytona, Fiona Margarita Santos（フィリピンYL）挨拶 出港

(2) タイ

月日	時間	活動内容
11月18日 (金)	7:30-8:00 10:00 10:30-12:30 13:00-13:30 13:30-14:00 14:30-15:30 17:00-18:00 18:00-20:00	タイ及びカンボジア国旗掲揚式（於 ドルフィンホール） 入港（バンコク港） タイにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング（対COC） 記者会見（於 ラウンジ「海」） 受入委員会によるオリエンテーション（対PY、於 ドルフィンホール） 到着歓迎式（於 バンコク港） ・ 黙祷（故プーミボン・アドゥンヤデート前国王陛下への追悼） ・ Mr. Maitri Inthusut社会開発・人間安全保障省事務次官挨拶 ・ 中村かおり管理官挨拶 タイ王国副首相表敬訪問（於 モンティエンリバーサイドホテル） ・ Pol. Gen. Adul Sangsingkeo社会開発・人間安全保障大臣から第43回「東南アジア青年の船」事業報告 ・ H.E. Admiral Narong Pipatanasaiタイ王国副首相挨拶 ・ 中村かおり管理官挨拶 ・ 記念品交換 歓迎夕食会（於 モンティエンリバーサイドホテル） ・ H.E. Admiral Narong Pipatanasaiタイ王国副首相挨拶 ・ 故プーミボン・アドゥンヤデート前国王陛下作曲作品の演奏
11月19日 (土)	8:20 8:30-9:00 9:30-13:00 14:00-15:00	<管理官、カンボジアNL、各国YL> カンボジア・プノンペンへ出発（PG-931便） ホームステイ説明（対PY、於 ドルフィンホール） 課題別視察（SG別） SG-A,B: チャンカセーム・ラーチャパット大学 SG-C,D,E: タイ商工会議所大学 SG-F,G: スワンドゥシット大学 SG-H,I: タンマサート大学タープラチャン・キャンパス SG-J,K: ランシット大学 ホームステイ・マッチング（於 モンティエンリバーサイドホテル）
11月20日 (日)	14:30 18:00-21:00	<PY> ～終日ホームステイ～ <管理官、カンボジアNL、各国YL> スワンナプーム空港（バンコク）到着（PG-930便） <各国YL> ホームステイ・マッチング（於 スワンナプーム空港） 既参加青年のつどい（於 ドルフィンホール及びダイニングルーム）

月日	時間	活動内容
11月21日 (月)	11:30-12:30 13:00-14:00 14:30-15:30 16:00	PYホームステイから帰船 船内公開 出港式 (於 バンコク港) ・ Ms. Napa Setthakorn社会開発・人間安全保障省副次官挨拶 ・ PY代表Mr. Nguyen Trung Nguyen (ベトナムPY) 挨拶 ・ 記念品交換 出港

(3) カンボジア (代表団：管理官、カンボジアNL、各国YL)

月日	時間	活動内容
11月19日 (土)	9:30 10:00-15:00 16:00-17:30 18:30-20:30	プノンペン国際空港到着 (PG-931便) 国立博物館、王宮訪問 カンボジア王国首相表敬訪問 (於 首相府ピースパレス) ・ H.E. Mr. Samdech Akka Moha Sena Padei Techo Hun Senカンボジア王国首相 挨拶 ・ 中村かおり管理官挨拶 ・ 記念品交換 歓迎夕食会 (於 ソカ・プノンペン・ホテル) ・ PY代表稲垣享一郎 (日本YL) 挨拶 ・ 記念品交換 ・ 記念撮影
11月20日 (日)	8:30-11:00 13:20	エコ・アグリ・センター (EAC) 訪問 タイ・バンコクへ出発 (PG-930便)

(4) シンガポール

月日	時間	活動内容
11月26日 (土)	7:30-8:00 10:00 10:00-12:00 12:00-12:30 14:15-14:30 14:30-17:00 17:00-18:00	シンガポール国旗掲揚式（於 ドルフィンホール） 入港（シンガポールクルーズセンターCC02） シンガポールにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング（対COC） 受入委員会によるオリエンテーション、ホームステイ説明（対PY、於ドルフィンホール） H.E. Ms. Grace Fu Hai Yien文化社会青年大臣表敬訪問（於 シンガポールEXPO） 日・ASEANカーニバル（於 シンガポールEXPO） ・ 地元青年によるパフォーマンス ・ 中村かおり管理官挨拶 ・ H.E. Ms. Grace Fu Hai Yien文化社会青年大臣挨拶 ・ 記念品交換 ・ 記念撮影 ・ 堤尚広在シンガポール日本国大使館臨時代理大使挨拶 ・ SSEAYPインターナショナル・シンガポール（SIS）に対する外務大臣（日本）表彰 ・ PYによるパフォーマンス ホームステイ・マッチング（於 シンガポールEXPO）
11月27日 (日)		<PY> ～終日ホームステイ～
	18:00-21:00	既参加青年のつどい（於 ドルフィンホール及びダイニングルーム）
11月28日 (月)	11:00-12:00 13:00-13:30 15:00-18:00	PYホームステイから帰船 社会貢献活動説明（対PY、於 ドルフィンホール） 社会貢献活動（SG別） SG-A: SportCares SG-B: Beyond Social Services SG-C: Food from the Heart SG-D: Malay Youth Literary Association (4PM) SG-E,I: Pertapis Children's Home SG-F: Association for People with Special Needs – Centre for Adults (APSN-CFA) SG-G: Lakeside Family Services SG-H: Fei Yue Senior Activity Centre SG-J: Muhammadiyah Welfare Home SG-K: Pertapis Senior Citizen Fellowship Home
11月29日 (火)	9:00-11:00 12:30-13:30 14:30-15:30 16:00	ヘリテージ・トレイル（SG別） SG-A,B: マリーナ・ベイA（マリーナ・ベイ・サンズからシンガポール・フライヤー） SG-C,D: マリーナ・ベイB（シンガポール・フライヤーからマーライオン） SG-E,F: マリーナ・ベイC（エスプラネードからマリーナ・ベイ・サンズ） SG-G,H,I,J,K: ダコタ・クレセント（若者×コミュニティの未来） 船内公開 出港式（於 シンガポールクルーズセンターCC01岸壁） ・ PYによるフラッグ・チアー ・ PY代表Mr. Panomkorn Jirasatienpong（タイYL）挨拶 ・ Mr. Baey Yam Keng文化社会青年省政務次官挨拶 ・ 記念品贈呈 出港

(5) インドネシア

月日	時間	活動内容
12月2日 (金)	7:30-8:00 10:00 10:00-12:00 12:15-12:45 13:00-13:20 13:20-14:00 16:00-17:00 17:30-18:30 18:30-19:30 19:30-21:30	<p>インドネシア国旗掲揚式 (於 ドルフィンホール)</p> <p>入港 (タンジュンプリオク港)</p> <p>インドネシアにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング (対COC)</p> <p>イスラーム教徒のための金曜礼拝 (於 スタジオ)</p> <p>受入委員会によるオリエンテーション (対PY、於 ドルフィンホール)</p> <p>到着歓迎式 (於 ドルフィンホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dr. Yuni Poerwanti青年スポーツ省大臣秘書官挨拶 ・ 記念撮影 <p>タマンミニ・インドネシア・インダー (TMII) 訪問</p> <p>青年スポーツ省青年育成担当副大臣表敬訪問 (於 TMIIササナクリヤ・ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dr. Jonni Mardizal青年スポーツ省青年育成担当副大臣挨拶 ・ 和田昭夫内閣府青年国際交流担当室長挨拶 ・ 記念品贈呈 ・ 記念撮影 <p>歓迎夕食会 (於 TMIIササナクリヤ・ホール)</p> <p>シェアリング・セッション (於 TMIIササナクリヤ・ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和田昭夫内閣府青年国際交流担当室長挨拶 ・ Mr. A.M. Fachir外務副大臣による講義 ・ 記念品交換 ・ 記念撮影
12月3日 (土)	9:00-9:30 10:30-13:00	<p>ホームステイ説明 (対PY、於 ドルフィンホール)</p> <p>ホームステイ・マッチング及びカルチャー・パフォーマンス (於 観光省)</p> <p>アングルン (伝統楽器) パフォーマンス</p> <p>PYによるパフォーマンス</p> <p>Mr. Oddy Medrian SSEAYPインターナショナル・インドネシア (SII) 会長挨拶</p>
12月4日 (日)		<p><PY> ～終日ホームステイ～</p>
	18:00-21:00	既参加青年のつどい (於 ドルフィンホール及びダイニングルーム)
12月5日 (月)	11:30-12:30 13:00-14:00 14:30-15:30 16:00	<p>PYホームステイから帰船</p> <p>船内公開</p> <p>出港式 (於 タンジュンプリオク港)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PYによるフラッグ・チアー ・ PY代表Ms. Keang Chanboramey (カンボジアYL) あいさつ ・ Mr. Wahyu Haryadi北ジャカルタ市長挨拶 ・ 記念品交換 <p>出港</p>

6 解散式

12月14日18時から、にっぽん丸船内ドルフィンホールにて解散式を行った。

始めに、和田昭夫内閣府青年国際交流担当室長から各国NLに参加証書を授与した。続いてPYの代表として各国のYLに参加証書を授与した。その後、和田室長から

挨拶があり、続いてPY代表としてMs. Nur-Illya Nafiza Binte Mohamed Noorhazman（シンガポールYL）が挨拶をした。

その後に予定されていた解散交歓会は、インフルエンザの発生により取りやめた。

7 下船・帰国

12月13日の9時15分から、NL、YLに対して、下船手続きの説明を行った。次に、国別ミーティングの後、国ごとに設定した荷物置場に各自の荷物を移動した。

12月15日5時45分から、日本以外のPYは国別に順次ダイニングルームに集合し、それぞれバスで成田国際空港又は羽田空港に向かい、帰国した。

8 日本参加青年の帰国後研修

日本参加青年39名に対し、12月15日～16日の2日間、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて帰国後研修を行った。日本参加青年は事業

の振り返りを行うとともに、事業報告会の準備を進めた。また、船内で話し合い、帰国報告会で発表した事後活動プロジェクトについて更に議論を深めた。